

1. 焼津市の水道料金：口径別基本料金・従量料金の現行と審議会における改正案の比較表 (税抜)

口径	基本水量	給水戸数 R6年度末	給水戸数 R6年度末	年間有収水量 R6年度末	水道料金 R6年度末	基本料金 (円)				従量料金 (円)															
						基本料金 (円)				0~10 円/㎥			11~30 円/㎥			31~50 円/㎥			51~ 円/㎥						
mm	m³	戸	構成比 (%)	構成比 (%)	構成比 (%)	現行	改正案	差額	割合 (%)	現行	改正案	差額	割合 (%)	現行	改正案	差額	割合 (%)	現行	改正案	差額	割合 (%)	現行	改正案	差額	割合 (%)
13	10	23,497	38.6	23.8	20.2	680	885	205	30.1↑	0	0	—	—	94	122	28	29.8↑	108	140	32	30.0↑	136	178	42	42.0↑
20	10	34,405	56.6	50	46.5	980	1,275	295	30.1↑	0	0	—	—	94	122	28	29.8↑	108	140	32	30.0↑	136	178	42	42.0↑
25	10	2,118	3.5	5.2	5.7	1,160	1,510	350	30.2↑	0	0	—	—	94	122	28	29.8↑	108	140	32	30.0↑	136	178	42	42.0↑
30	—	268	0.4	1.4	1.9	1,600	2,080	480	30.2↑	108	140	32	30.0↑	108	140	32	30.0↑	108	140	32	30.0↑	136	178	42	42.0↑
40	—	316	0.5	4.4	5.7	2,840	3,693	853	30.2↑	108	140	32	30.0↑	108	140	32	30.0↑	108	140	32	30.0↑	136	178	42	30.9↑
50	—	150	0.3	5	6.6	6,400	8,320	1,920	30.2↑	108	140	32	30.0↑	108	140	32	30.0↑	108	140	32	30.0↑	136	178	42	42.0↑
75	—	55	—	3.9	5.2	14,000	18,200	4,200	30.0↑	108	140	32	29.6↑	108	140	32	29.6↑	108	140	32	30.0↑	136	178	42	42.0↑
100	—	12	—	0.9	1.3	28,600	37,180	8,580	30.2↑	108	140	32	30.0↑	108	140	32	30.0↑	108	140	32	30.0↑	136	178	42	42.0↑
150	—	1	—	0.8	1	81,600	106,080	24,480	30.2↑	108	140	32	30.0↑	108	140	32	30.0↑	108	140	32	30.0↑	136	178	42	42.0↑
300	—	1	—	4.6	5.9	504,000	655,200	151,200	30.2↑	108	140	32	30.0↑	108	140	32	30.0↑	108	140	32	30.0↑	136	178	42	42.0↑

※基本料金：1か月分、従量料金：単価

※令和6年度 未給水戸口：133,860人、給水戸数60,823戸

年間給水量：19,251,269㎥、一日平均給水量52,743㎥、年間有収水量17,448,697㎥

※水道料金の現行、改正案は審議会資料より

2. 1か月の水道料金（口径13mmの場合）現行と審議会改正案の比較

	現行				改正案			
	0~10	11	31	51	0~10	11	31	51
使用水量m³	0~10	11	31	51	0~10	11	31	51
基本料金①	680	680	680	680	885	885	885	885
従量料金②	0	94	1,988	4,176	0	122	2,580	5,418
水道料金税抜 (①+②)	680	774	2,668	4,856	885	1,007	3,465	6,303
改定案一現行					205	233	797	1,447
割合 (%)					30.1↑	30.0↑	29.9↑	29.8↑
1か月税込	748	851	2,934	5,341	973	1,107	3,811	6,933
2か月税込	1,496	1,702	5,868	10,682	1,946	2,214	7,622	13,866

※本市の水道料金は2か月に1回徴収

5. 約30%値上げをする理由と料金改定率の設定方針

【理由】

- ①水需要の低下による給水収益の減少。
- ②高度経済成長期に整備した水道施設の更新需要の増大。
- ③物価高騰などによる事業運営に係る費用の増加。
- ④能登半島地震を踏まえた計画的な耐震化の推進。

【料金改定率の設定方針】

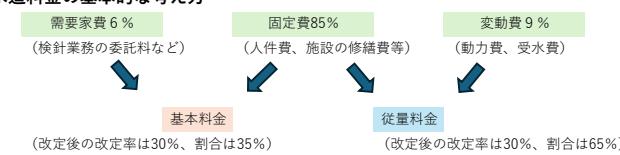
1 計画期間は継続して利益を確保する（令和8年度は赤字を予想）。

2 内部留保資金10億円以上確保する。

※内部留保資金とは減価償却費などの現金の支出を伴わない費用により発生する資金や利益剰余金などの企業内部に留保される資金のこと。

3 料金算定は4年（R8年度～R11年度）とし、当該期間中はすべての年度において料金回収率を100%以上を目指す。

3. 水道料金の基本的な考え方



4. R6年度決算 (税抜)

令和6年度事業費用	実績 (円)	構成比 (%)
1職員給与費	160,597,580	8.2
2動力費	103,925,806	5.3
3受水費（※）	367,644,876	18.7
4受託工事費	22,025,200	1.1
5委託料	297,465,876	15.2
6修繕費	80,509,356	4.1
7減価償却費	752,469,114	38.4
8資産消耗費	52,650,936	2.7
9支払利息	61,846,563	3.2
10その他費用	61,325,503	3.1
計	1,960,460,810	100

令和6年度事業収益：2,123,372,388円

(水道料金総額1,944,215,274円 + 受託工事収益等179,157,114円)

純利益：162,910,578円

※受水費：大井川広域水道受水費

6. 基幹管路等耐震化の状況 (R6年度実績) (%)

基幹管路の耐震適合率	46.5
重要給水施設管路の耐震管率	43.7
浄水施設の耐震化率	100
配水池の耐震化	100

※基幹管路の耐震適合率はR10年度に60.2%となる見通し